

そうじは心なり



ある日のそうじ時間です。

ここは、管理棟の廊下で、8年生と9年生のそうじ区域。

1学期も2学期も、ここを掃除している生徒の皆さんはこんな感じで掃除をしています。

誰が見ているわけでもなく、誰かが褒めてくれるからでもなく。

だからこそ、価値がある。

勉強はできるに越したことはない。スポーツや文化活動もできるに越したことはない。でも、そうじはできる必要がある。なぜなら、そうじをすることに才能は必要ない。もちろんきれいになったか・ならなかったかの差はでる。ただ、プロ(仕事としてする。お金を稼ぐ)ではないので、そこは問うていない。誰でもができることをおろそかにしない皆さんは心が美しく、素敵である。



「黙々と」
が似合う生徒



あの・・・私の単純な疑問！

なぜ、学校はそうじ区域を生徒それぞれに分担されているのでしょうか？

家では、掃除する区域を家族それぞれに分担されていますか？

少なくとも私の家は分担されていない・・・

学校のそうじ区域が分担されている私の私見は「本来、自分の持ち物でない箇所を使った場合、使った箇所は掃除して返却するべき。学校も自分の持ち物ではないので、使った箇所はすべて掃除して1日を終えるべき。ただ、それは現実的でないのでみんなで分担して掃除しているのだろう。」です。どうですか？

じゃあ・・・家は？家族に任せっきりでよいのかな？と自問自答する私・・・